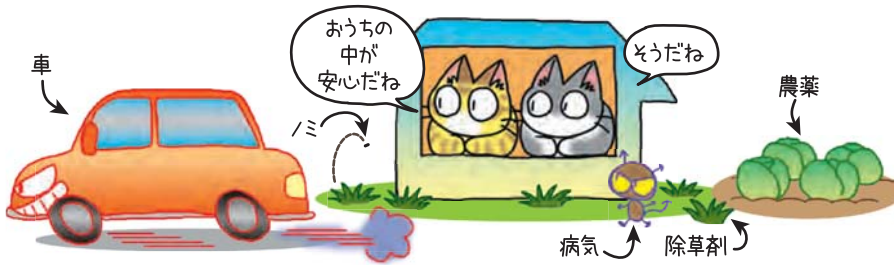


交通事故、排ガス、有毒物質、農薬、他の動物、毒のある植物、動物をいじめる人、盗難など、外には危険がいっぱいあります。

外飼い

外出自由の猫など、ペットを放し飼いにしている飼い主は、これらの危険にペットをさらしていることを忘れてはいけません。車の怖さを知ったとき、食べたり触ったりしたものが毒だと知ったとき、ペットは命を落としているかもしれません。ペットは家の中や囲いの中で飼って、外の危険から守るのも、飼い主の責任です。



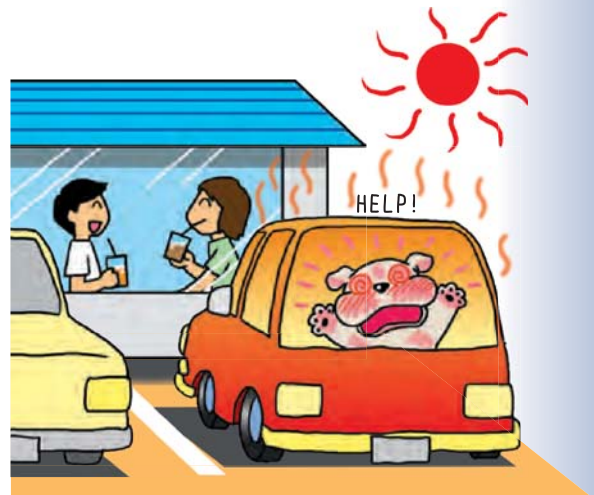
交通事故に遭った外飼いの猫

散歩

外出先では、予測できない事態が起きて、ペットが驚いて逃げ出したり、思いもかけない行動でケガを負うこともあります。買い物中にお店の前にペットをつないでおくと、誰かに傷つけられたり、連れ去られてしまうかもしれません。散歩中に放すことは、ペット自身にも周りの人にも危険です。外出中は、リードでつないだり、ケージに入れて目を離さないようにしましょう。暑すぎる時間帯の散歩は避けるなどの配慮も必要です。

旅行

車、電車、航空機などでの移動中はペットにとって過酷な環境になることもありますから十分注意しなくてはなりません。特に、車の中は高温になりやすく、汗をかけないペットは容易に熱中症になってしまいますから、厳重な注意が必要です。短時間でも、ペットだけを車内に残して車を離れてはいけません。熱中症は夏だけの病気ではなく、気温や湿度が高く、空気の通りの悪い環境ではいつでもなる危険があり、命を奪うこともあります。



身元表示

外出先では思いがけない事故でペットが迷子になることもあります。万一来に備え、ペットには必ずマイクロチップや名札など、身元を示すものをつけましょう。犬などしつけのできるペットは、マテや呼び戻しなどのしつけをしておくことも大切です。

ペットの気持ち

一緒に旅行したり、ドッグランに行ったり、お花見に連れて行ったり・・・ペットも外出を楽しんでいればいいのですが、楽しいのは飼い主だけで、ペットにとってはひどいストレスになっている場合もあります。ペットを連れて出かける前に、本当に

ペット自身が楽しめるか、ペットの気持ちになって考えてみましょう。安心できる慣れた自宅に置いて世話はペットのシッターに任せたり、信頼できるペットホテルに預ける方が、一時的に飼い主から離れるとしてもペットにとってはいい場合もあります。

